

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	からふるリーフみさと		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		令和8年 3月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 21日		令和8年 3月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と話ができる機会を作っている 施設の老朽化があるのでメンテナンスしていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な個人面談(お茶会の開催) HUGを使用した連絡帳にて、様子や悩みの共有 送迎時に対面で話す場 参観懇談会の開催(保護者同士の交流、子どもの様子の見学等) 	職員の研修機会を確保してより専門性の高い支援を提供している。最新の療育方法を取り入れることで、より効果的な支援が実施されている。
2	様々な研修の実施(職員育成の強化)	<ul style="list-style-type: none"> 研修委員を中心に、虐待防止、感染症予防、その他職歴などに合わせて様々な研修を行っている。 事例検討会では、全職員が進行役となり、進行者としてのスキルも上げられるように工夫している。 研修動画を用意して個々のペースで行えるようにして、参加できない職員がいないようにしている。 	定期的に職員の希望を確認しながら、保護者や児童、職員のニーズにあった研修や、支援の質が向上する研修を実施していく。
3	児童発達支援と放課後等デイサービスの2事業を運営しているため、切れ目なく一人のお子さんに関して長期間関わることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 就学前から細やかな関わりを行うことができ、就学時に必要な準備も利用児童のペースに合わせて行うことができる。 就学に向けての引き継ぎだけでなく、入学後も保護者や先生と細かく引き継ぎややり取りを行うことができる 	ライフステージが変わった際に、保護者や就学先等へ情報提供を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者の方への非常時等への対応(緊急時・感染症等)に対する周知・発信不足。 訓練等実施していることへの発信不足。	・防災への取り組みや緊急時の対応は作成してHP等にも載せてはいるが周知機会が不足	・施設のメンテナンスだけでなく細かなところの清掃に気をつける
2	利用児童と地域との交流機会の企画・提供不足。	<ul style="list-style-type: none"> 療育内容や支援といった「本人支援」に重点を置いており、「地域支援・地域連携」に対する情報収集不足・取り組み不足。 年間計画として立案していない意識不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全面を考慮しながら、近くの公園等から少しずつ交流の機会を増やしていく。また、地域の活動等の情報収集を行う。 長期休暇時の利用の場において設けていく。 地域のニーズ・意見を聴取し、年間計画として立案
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会	・気兼ねなく地域の保育園に出向ける方とそうでない方がいる中で支援しながら地域のこどもたちと交流や活動をしていくのか	地域での活動把握はどうしたらいいのか、また活動があった場合でも利用家族のニーズ調査をしていく必要がある